

地方公会計から見るうるま市の財政状況について

地方公会計制度とは、複式簿記の考え方を取り入れた財務書類を作成する制度です。この制度によって、市の保有する資産や負債の状況など、現金の出し入れ以外の情報から財政状況を見ることができます。

地方公会計制度では財務書類4表と固定資産台帳を整備します。

- 財務書類4表… ①貸借対照表(バランスシートの役割) ②行政コスト計算書(損益計算書の役割)
③純資産変動計算書 ④資金収支計算書(キャッシュフロー計算書の役割)
固定資産台帳…市保有の非金融資産(建物、土地、物品など)について取得価格、耐用年数などを一覧にしたもの

今回は財務書類の一つである貸借対照表をピックアップしてご紹介します。貸借対照表から市が保有する建物・土地・物品など資産や、負債、純資産などを把握することができます。

令和3年度うるま市一般会計貸借対照表※概要版 単位:千円(端数調整の関係で合計金額が一致しない箇所がございます。)

①資産の部(今まで積み上げてきた資産)			②負債の部(将来世代が負担する額)	
固定資産	事業用資産(庁舎、学校など)	82,210,161	固定負債(今後の返済など)	44,828,106
	インフラ資産(道路、橋りょうなど)	83,050,304	流動負債(1年以内の返済など)	5,674,580
	その他	14,868,990	負債合計	50,502,686
	小計	180,129,456	③純資産の部 (税金などこれまでの世代が負担した額)	140,504,483
流動資産				
現金預金など	4,041,044			
	基金	6,836,669		
	小計	10,877,713		
資産合計		191,007,169	②負債及び③純資産合計	191,007,169

貸借対照表の左の資産は、右の負債と純資産によって形成されているため、資産合計=負債+純資産になります。

貸借対照表から分かること

貸借対照表から分かることを一部紹介します。

○将来世代と今までの世代の負担の割合

資産に対する負債のおおよその割合は26%、純資産は74%となっています。令和3年度時点では負債の割合は少ないですが、少子高齢化が進む中で、人口動態を見据えながら負債と純資産の比率を注視していく必要があります。

○流動比率…流動資産÷流動負債×100≒192%

1年以内に返済予定の借金などに対する支払い能力を示します。

100%を下回ると、建物を修繕するための貯金を取り崩したり、さらに借金をして返済をしなければならない状態になります。

令和3年度時点では流動比率がおおよそ192%と100%を超えているので、近々の返済を手元資金でまかなえていることが分かります。

より詳細な内容やその他の財務書類はホームページにて公開しておりますのでご覧ください。

財務書類の作成は、決算確定後に膨大な数の資産の状況等を整理していくため、3月末の完成予定になります。

そのため令和4年度の財務書類は4月頃にホームページ等で公開する予定です。

